

農事組合法人ひじきファーム（三重県伊賀市）

地域農業の維持発展へ ～農地を守り、地域に活力を～



背景

伊賀市南部の盆地にある比自岐地区は、近年人口減少が一段と進む典型的な過疎地域である。稲作中心の農業が行われているが、高齢化、後継者不足の進展などにより農地の維持や、むらそのものの活力低下が懸念される状況にあったため、農地・集落を守るため、地域住民での話し合いにより平成23年に「農事組合法人ひじきファーム」を設立した。

取組概要

農地中間管理機構を活用し、高齢化により農業の継続が困難となった農地を条件の優劣を問わず借入れ、農地の集積・集約化に取り組み、地区の約7割の農地を保全管理している。

同じ課題を抱える近隣の農業集落法人とも連携し、施設・機械の共同利用・農業資材の一括購入・作業の相互補完など、コスト低減に取り組みながら「共に生き残る取組」を進めている。

令和3年度には新規就農者2名を雇用し、将来を見据えた後継者育成にも力を入れている。

女性理事が中心となり、企業組合「旬菜工房笑み」を設立。法人が出資した加工施設で地域の農産物を使用した加工品の開発・製造・販売を行っており、女性、高齢者の新たな雇用の場となっている。

人・文化・経済的交流として、鳥羽市答志島と「ひじき交流」（山の「比自岐」と海の「ひじき」）を行っており、双方の特産品を活用したコラボ商品を開発し直売所や観光施設などで販売している。

今後の展開

地域住民の参加を基本に、女性や高齢者が生き生きと活躍し、地域の農業・むらをみんなで守り、育てる体制を構築し、美しい田園風景の保全と地域の活性化を進めてきた。

昨年度からは後継者育成にも力を入れており、今後も農業の継続・発展、さらに交流・6次産業化などによる地域振興や、集落の維持発展に向けて取り組みの継続と発展をめざす。

写真で見る団体の取り組み



比自岐地区景観



「ひじき笑みの市」の開催
(答志島の海産物も販売)



答志島とのコラボ商品
「茎わかめとしいたけの佃煮」「ひじき入りこんにやく」



多くの人で賑わう「コスモスまつり」



答志島との交流 比自岐祇園祭

